

2021 年第 3 回定例会 一般会計決算 反対討論（文教委員会）

令和 2 年度調布市一般会計歳入歳出決算、文教委員会所管部門につきまして、生活者ネットワークは認定に反対の立場から討論をいたします。

まず歳出の補助費が大幅に増加する原因ともなったプレミアム付商品券事業につきましては、補正予算第 4 号の審査の中でも問題点を指摘いたしました。事業の目的であるコロナの影響を受けている事業者への支援、消費喚起、また市民生活支援、いずれに対しましても効果検証がされていない点に、市民の血税の管理を任されている市の責任に対する認識の甘さを感じざるを得ません。また、これまでの国や他自治体が行ってきた同様の事業の効果検証やコロナ禍における消費活動の傾向から、市の目的を満たす効果は事業費に対して非常に小さいことは予測がつくものです。スクラッチ事業につきましても、毎年の実施において課題認識がありながら補正で 1 億円を増額し、結果的にやはり課題が多いから中止をするという、コロナ禍においてもなお税金がこのような使われ方をすることについて大きな不安を感じるものです。

教育につきましては、一斉臨時休業に始まり、非常事態の連続の中、子どもよりも国や都の意向や大人の都合を優先する姿勢が見られました。特に学びや遊びのみならず、食の保障、居場所機能など学校に求められる福祉的機能についても認識が問われる社会状況の中、子どもたちを権利の主体者として考える視点は十分に生かされたとは言えなかったと思います。制定から 20 年近く経過する調布市子ども条例の条文も認識がおりでないことが確認されました。今後は市内調査で明らかになっている子どもの生活の実態、調布市子ども条例、そして東京都子ども基本条例を関連部署や教育関係者としっかりと共有し、子どもたちの実態に寄り添った教育施策に生かしていただきたいと要望いたします。この非常事態のピンチをチャンスに、子どもたちの最善の利益の視点に立った、一人も取り残さない教育を進めていただきたいと強く願う立場としては、令和 2 年度の取り組みには課題がございました。以上の理由などから、令和 2 年度一般会計歳入歳出決算の文教委員会所管部門につきまして、生活者ネットワークは不認定といたします。